

令和4年12月3日
Lib活「県民が編むかながわの半世紀」研究会②

図書館と地域資料

神奈川県立図書館 地域情報課
飯田 朋子

Ⅰ. 図書館における資料収集・保存

(Ⅰ) 図書館の役割と資料収集・保存

◆ 図書館の役割

資料の 収集・整理・提供・保存 + 継承

保存するだけではなく、有効に活用されることが大切
資料を活用する主体は利用者

→ 図書館ができるのは利用者が活用するための
手助け・仕掛けづくり

Ⅰ. 図書館における資料収集・保存

(2) 図書館が収集対象とする「資料」

博物館：あらゆる「もの」

◆博物館法

→「実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料」

利用のしかたは「展示」入手の仕方もいろいろ
利用者が手に取る機会は少ない

Ⅰ. 図書館における資料収集・保存

(2) 図書館が収集対象とする「資料」

公文書館：歴史公文書、古文書など

◆公文書館法

→「歴史資料として重要な公文書等」

保存期間満了を迎えた行政資料を「移管」

利用のしかたは「閲覧」

利用者が手に取ることもできるが借出しはできない

Ⅰ. 図書館における資料収集・保存

(2) 図書館が収集対象とする「資料」

図書館：本（など）

◆図書館法

→「図書、記録、視聴覚教育の資料その他必要な資料」（電磁的記録を含む）

基本的には同じものが世の中に複数あるもの
入手は購入が主
利用のしかたは「貸出」と「閲覧」

1. 図書館における資料収集・保存

(2) 図書館が収集対象とする「資料」

◆図書館における地域資料とは

「当該地域を総合的かつ相対的に把握するための資料群と捉え、発行者として行政体と民間（出版社や団体、個人）を問わず、また主題として歴史、行財政、文学その他を問わず、地域で発生するすべての資料および地域に関するすべての資料」

「地域資料サービスを行う目的は、当該地域に居住する住民の生活を情報や資料の面から支援すること」

・『地域資料入門（図書館選書14）』三多摩郷土資料研究会編 日本図書館協会 1999.4
p.18

1. 図書館における資料収集・保存

(2) 図書館が収集対象とする「資料」

◆図書館における地域資料の意義

- ①郷土資料はその地域でしか集められない資料である
- ②郷土資料は未来の利用者のために、今収集しなければならない資料である
- ③郷土資料はその地域の住民がその地域のことを知り、その地域の自治に参加するのに必要な資料である
- ④郷土資料はその地域の歴史的実在を証明する資料である

・「公立図書館の「郷土資料」について -思うこと・思い出すこと-」吉良洋一

『JUNTO CLUB 西日本図書館学会大分県支部会誌 第9号』 p.1-6 西日本図書館学会大分県支部 2009.3

http://bud.beppu-u.ac.jp/modules/xoonips/download.php/jc00902.pdf?file_id=330

(最終閲覧日:2022年12月1日)

Ⅰ. 図書館における資料収集・保存

(3) デジタル化と資料収集・保存

◆ 図書館資料とデジタル化

＜デジタル化される地域資料の例＞

- ・劣化が著しい資料
- ・貴重資料
- ・利用頻度の高い資料
- ・地図や絵図などの一枚ものなど

⇒ 資料の利用を保障するのが主な目的

※電子情報のみの地域資料をどう収集・保存するか

Ⅰ. 図書館における資料収集・保存

(3) デジタル化と資料収集・保存

◆デジタル資料の保存性・継続性

資料のデジタル化は不可欠といえるが…

紙の資料とデジタル資料は両輪のようなもの
相互補完的役割が望ましいのでは

※機器・媒体・長期保存の問題

※事業自体の継続性

2. 地域資料の活用

「令和元年房総半島台風」に関する館山市図書館の取組より

(1) 千葉県館山市の状況

◆館山市の概要

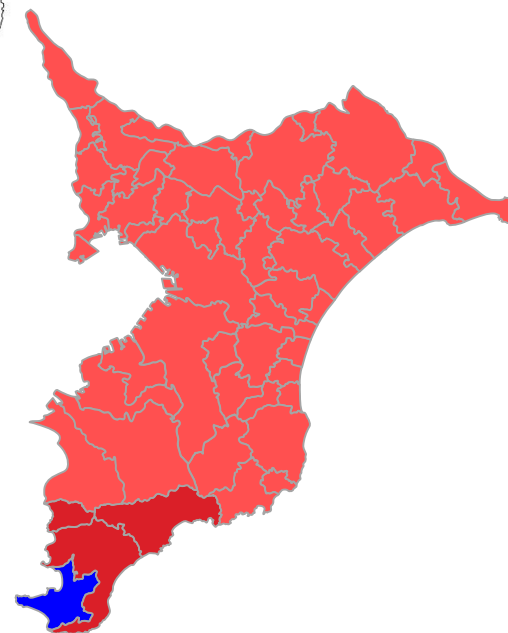
千葉県の南、東京湾の出口
海岸線は34.3キロに及ぶ

人口 44,937人

世帯数 23,211世帯

(令和4年4月1日現在)

※神奈川県立図書館では、
「千葉県隔海隣接地域(房総)」を
地域資料の収集対象範囲に含む



2. 地域資料の活用

「令和元年房総半島台風」に関する館山市図書館の取組より

(2) 館山市図書館の状況

◆昭和18年開館

(現在の場所・建物は
昭和47年(1973)から)

- ・蔵書数：162,895冊
- ・貸出点数：95,409点
- ・入館者数：約25,800人
(令和3年度)

※台風やCOVID-19流行の影響で
貸出点数・入館者数とも減少傾向



(画像は館山市図書館提供)

2. 地域資料の活用

「令和元年房総半島台風」に関する館山市図書館の取組より

(1) 千葉県館山市の状況

◆台風第15号（令和元年房総半島台風）2019.9.9

館山での ・最大風速 28.4m/s

・最大1時間降水量 60.0mm

※建物被害、断水、通信障害等市内全域で被害

※特に、電柱の倒壊による大規模停電は、
最長2週間近くに及んだ

2. 地域資料の活用

「令和元年房総半島台風」に関する館山市図書館の取組より

(1) 千葉県館山市の状況

◆台風第19号（令和元年東日本台風）2019.10.12

館山市では15号被害の応急処置による

ブルーシートの飛散等の被害

15号の経験から、市民は早めの対策・避難

◆2019年10月25日の大雨（台風第21号と低気圧の影響）

市内各所で道路冠水、土砂崩れなどの被害

床上・床下浸水も

2. 地域資料の活用

「令和元年房総半島台風」に関する館山市図書館の取組より

(1) 千葉県館山市の状況

- ・住宅被害：6,597件

(全壊101、大規模半壊235、半壊1,392、一部損壊4,869)

※市全体の約3割、地区によっては世帯の8割に被害

- ・死者、行方不明者は0

2. 地域資料の活用

「令和元年房総半島台風」に関する館山市図書館の取組より

(2) 館山市図書館の状況

- ◆台風第15号（令和元年房総半島台風）の時
9月8日は通常通りの開館（日曜日）
翌日（9月9日）は月曜のため休館

→職員が状況確認

屋上の防水対策シートのはがれ、雨の吹き込み、
資料の軽微な水濡れを確認、復旧対応を行う
停電はなかった

2. 地域資料の活用

「令和元年房総半島台風」に関する館山市図書館の取組より

(2) 館山市図書館の状況

◆台風第15号（令和元年房総半島台風）の後

9月10日より当面の間休館

ただし、「休憩施設」として開放、市民の携帯電話の充電等に対応

※情報が入りにくい状況のため、ライフラインに関する情報の掲示等を行う

※貸出は停止（閲覧は後日部分的に再開）

2. 地域資料の活用

「令和元年房総半島台風」に関する館山市図書館の取組より

(2) 館山市図書館の状況

◆台風第15号（令和元年房総半島台風）の後
9月26日まで休館の措置が取られる

※千葉県内では最も長い休館に

※市内の他の社会教育施設（博物館、公民館）は
10月1日から開館

※移動図書館「わかしお号」は、10月以降、
一部コースの巡回を休止

2. 地域資料の活用

「令和元年房総半島台風」に関連する館山市図書館の取組より

(3) 館山市図書館での取り組み

◆「ウィキペディアタウンin館山プレイベント」
(2019年11月9日 開催)

開催予定の「ウィキペディアタウン」が
台風の影響で延期に

☆運営に携わっていた市外の方たちから
「なにかできることはない？」の声
⇒少し落ち着いた頃にぜひ館山へ
元気を取り戻そうとしている姿を応援して!

2. 地域資料の活用

「令和元年房総半島台風」に関する館山市図書館の取組より

(3) 館山市図書館での取り組み

◆「ウィキペディアタウンin館山プレイベント」

インターネット百科事典「ウィキペディア」内の記事
「台風第15号」の中に、被害の大きかった館山
(安房地域)の記述が少ない

⇒ならば館山に足を運んで、図書館にある資料を
基に、記事の加筆・修正を行おう、という試みに

2. 地域資料の活用

「令和元年房総半島台風」に関する館山市図書館の取組より

(3) 館山市図書館での取り組み

◆「ウィキペディアタウンin館山プレイベント」 講師の言葉

「今日、2019年秋の気象災害について
ウィキペディアに**出典をつけて**加筆をするということは、
未来の誰かのためになることだ」

⇒多くの人が調べるきっかけにしている「ウィキペディア」
の記事を図書館資料を活用して充実させることは、
地域のできごとを未来につなぐことにもつながる

2. 地域資料の活用

「令和元年房総半島台風」に関する館山市図書館の取組より

◆「ウィキペディアタウンin館山プレイベント」

【当日編集した記事】

- ・令和元年台風第15号 <https://w.wiki/BzV>
(現在の記事名は「令和元年房総半島台風」)
- ・沖ノ島(千葉県) <https://w.wiki/C2S>
- ・布良崎神社 <https://w.wiki/BzW>

2. 地域資料の活用

「令和元年房総半島台風」に関する館山市図書館の取組より

(3) 館山市図書館での取り組み

◆地域紙の台風関連記事の目録作成

地域紙「房日新聞」掲載の台風記事について、
記事採録を行い、目録を作成

台風の直後の様子だけでなく、その後も追えるよう、
見出しなどから細かくキーワードを設定

2. 地域資料の活用

「令和元年房総半島台風」に関する館山市図書館の取組より

(3) 館山市図書館での取り組み

◆地域紙の台風関連記事の目録作成

地元のボランティアとの協働

「記事が追えるようになっていると、のちのち
調べたいときに役に立つ」

※図書館員だけではできなかった、
図書館資料をより役立つものにするための取組

2. 地域資料の活用

「令和元年房総半島台風」に関する館山市図書館の取組より

(3) 館山市図書館での取り組み

◆地域紙の台風関連記事の目録作成

目録を作成するだけでなく、図書館員・市民が活用できることの大切さ

⇒使えるようにしておくことで資料へのアクセスが容易になり、資料の価値が上がる

2. 地域資料の活用

「令和元年房総半島台風」に関する館山市図書館の取組より

◆神奈川県立の図書館の「神奈川県関係記事・文献情報」

(https://www.klnet.pref.kanagawa.jp/k_bunken/)

県関係記事等の目録化 検索も可能

新聞・雑誌だけでなく、図書（地域資料以外の一般図書）も対象

The screenshot shows the search results page for '神奈川県関係記事・文献情報検索' (Kanagawa Prefecture Related Articles and Document Information Search). The page displays a list of search results with columns for No., Document Type, Article/Document Title, Publication Name, and Publication Date. The results are sorted by relevance, and the first three items are visible.

No.	文 献 種 別	記事・文獻タイトル（表記）	掲載紙・誌名（表記）	出 版 年 月 日	出 版 年 月 日
1	雑 誌 文 献	機能性が注目される神奈川県の県水産物	食品と健康 第53巻第4号 通巻723号 2018年4月号	2018	NO IMAGE
2	新 聞 記 事	湘南ゴールド、高品質の生産目指す 小田原の「SG21」提携協議会を初開催	神奈川新聞 朝刊	2018	NO IMAGE
3	新 聞 記 事	湘南ゴールド活用 県内の加工品開発 今月発売へ スイーツも	神奈川新聞 朝刊	2018	NO IMAGE

3. 資料を集め、整理し、活用し、未来へつなぐ

◆館山市立博物館による「市民の体験を歴史資料に」 との呼びかけ

※他機関との連携により、集まった資料を、
より活用できないか？

- ・博物館で集めた体験をまとめ、図書館で閲覧・貸出可能な形にする
- ・各機関での展示に活用する …など

☆「MLAK」連携

生涯学習施設・社会教育施設間での役割分担と連携

3. 資料を集め、整理し、活用し、未来へつなぐ

◆図書館は何のために資料を集め、整理し、利用できるようにしているのか？

⇒住民が今よりもっとよく生きるため
そのためにはどうすればよいか、
自ら考え、行動するきっかけを、
住民自身が資料を通して見つけられるように

※資料利用の主体は「利用者」

3. 資料を集め、整理し、活用し、未来へつなぐ

今、そしてこれから、自分の住む地域や自分の暮らしをよくするために何が見出せるか

過去の様子や蓄積された知恵・知識を今に生かし、
過去の地域の姿に学ぶ

《台風に関連してあったレファレンスの事例》

◆「瓦屋根の修理の方法は？」

◆「昭和22年か23年頃に、房総半島に上陸、
令和元年房総半島台風と同じようなコースを
たどった台風があるというが…」

4. 資料を集め、整理し、活用し、未来へつなぐ

- ◆未曾有の事態に、図書館や博物館、公文書館が
保存してきた資料がどう役立つのか
今を生きる利用者はもちろん、未来の利用者のために
何ができるか、どんな資料をのこすのか
特に地域に関する資料は、他に委ねることは
できないもの
- ☆利用者に手渡せない資料は「ない」と同じこと
資料があることを知ってもらうための仕掛けと、
活用できるようにするための整理と仕組みを

おわりに

神奈川県立図書館で発行している『郷土神奈川』
第59号（2021年3月発行）の特集は「神奈川と疫病」

※冊子だけでなくデジタル化もして公開

⇒（どこかが保存している）

歴史資料・地域資料を基に、

現代の研究者、郷土史家、

学芸員などが研究した

成果を図書館が取りまとめて刊行



「郷土に関する調査研究に役立ててもらうため」

「郷土の歴史文化について、より身近に興味を」

おわりに

この「県民が編む かながわの半世紀」は、
図書館が持つ資料や機能を活用しながら
地域住民が地域の「現代」を未来につなぐ取組

●地域に生きる住民の手で編む年表

●地域住民の視点で、未来のこの地域に
つなぐ事柄をまとめていく

そんなことを頭の片隅に置いて
取り組んで頂ければ

参考資料

- ・『地域に生きるミュージアム 100人で語るミュージアムの未来Ⅱ』
現代企画室 2013.2
- ・『災害アーカイブ—資料の救出から地域への還元まで』
白井哲哉著 東京堂出版 2019.4
- ・『災害記録を未来に活かす(デジタルアーカイブ・ベーシックス2)』
勉誠出版 2019.8
- ・『地域資料サービスの実践(JLA図書館実践シリーズ41)』
蛭田廣一著 日本図書館協会 2019.8
- ・『令和元年房総半島台風等被害に関する災害対応の検証』館山市 2021.3
- ・古賀崇「地域資料としての公文書と図書館・文書館(特集 文書館と図書館)」
『現代の図書館』第57巻第1号 日本図書館協会 2019.4 p.9-15
- ・宮坂新「歴史資料としての災害体験」
『千葉史学』第77号 千葉歴史学会 2020.11 p.8-9